

ホームページをリニューアルいたしました。



<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>



第82期中間報告書

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで

P1..... トップメッセージ
 P3..... 製品のご案内
 P5..... セグメント別事業概況
 P7..... 中間財務諸表
 P9..... 会社概要
 P10..... 株式情報

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
 剰余金の配当基準日 3月31日
 (中間配当を行う場合は9月30日)
 定時株主総会 毎年6月下旬
 単元株式数 1,000株
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行株式会社
 上場取引所 株式会社東京証券取引所 市場第二部
 株式会社大阪証券取引所 市場第二部
 証券コード 3604

<郵便物送付先・お問い合わせ先>

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
未払配当金のみ、みずほ銀行 全国本支店でもお取扱いいたします。		
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取り以外の株式売買はできません。 (特別口座に記録したままでは、株式を証券取引所で売買することはできません。)

公告方法 電子公告 (<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>)
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

支払通知書に関してご留意いただきたい事項

「支払通知書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成するものであり、株主さまが確定申告を行う際に必要となる場合があります。

当社がお支払いする配当金については、株主さまにお送りしております「配当金計算書」を「支払通知書」としてご利用いただくことができます(但し、株式数比例配分方式を選択された場合については、お取扱いが異なりますので、お取引の証券会社にお問い合わせください)。ご不明な点については、みずほ信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。

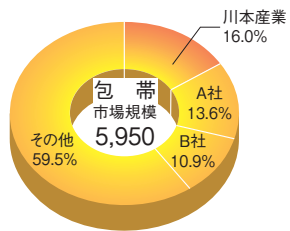
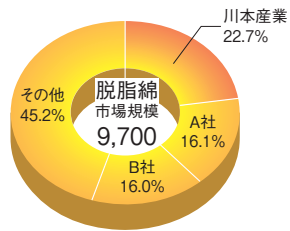
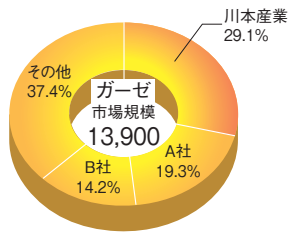




代表取締役社長

川本 武

■2009年度ガーゼ・脱脂綿・包帯
医家向けシェア (単位: 百万円)



注：メーカー出荷ベース
出所：株式会社矢野経済研究所「医療・衛生用品の市場実態と製品別需要動向」をもとに弊社で作成

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のことと拝察申し上げます。平素は格別のご支援ご愛顧を賜わり厚くお礼申し上げます。さて当社第82期中間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)事業年度を終了いたしましたので、事業の概況並びに主要事項をご報告申し上げます。

Q 当中間期における業績は
いかがでしたでしょうか

A 売上高は減少いたしました。販売価格の適正化に向けた取り組みや低収益製品の販売価格の見直しにより増益となりました

わが国経済は、震災後の原発災害の長期化に加え、欧州における金融不安や長引く円高の影響により、景気の先行きに対する不透明感が増大しており、当医療衛生材料業界におきましても、厳しい経営環境が継続しております。

このような状況下で当中間期の売上高は、医療用品が製品・商品ともに減少したことや海外向け販売が前年同期実績を下回ったことが影響して148億34百万円(前年同期比1.2%減少)となりました。

利益面では、原材料の調達価格上昇を受けて、販売価格の適正化に向けた取り組みや低収益製品の販売価格の見直しにより、売上総利益率は前年同期に対して0.7ポイント上昇し、売上総利益は28億42百万円(同2.3%増加)となりました。

経費面では、運賃経費は増加しましたが、その他経費の全体的な節約に取り組んだことにより、販売費及び一般管理費は26億57百万円(同1.0%減少)となりました。これらの結果営業利益は1億85百万円(同92.2%増加)となりました。

営業外費用では、当期間が円高で推移した影響で為替差損が43百万円、デリバティブ評価損(為替予約評価損)が25百万円発生いたしました。これらの結果、経常利益は91百万円(前年同期は60百万円の損失)、中間純利益は41百万円(前年同期は34百万円の損失)となりました。

Q 下期の重点施策と
通期の展望をお話ください

A 積極的な自社製品の開発促進と販売拡大などの諸策により、売上高および利益面の向上を目指してまいります

下期の見通しにつきましては、厳しい環境は当面継続すると見込まれるなか、当社は、「自社製品の開発促進と販売拡大」・「海外向け販売拡充のための体制構築」・「生産性の効率化推進」・「製品供給の安定化」・「投下資本の効率化」に注力し、引き続き全社をあげて経費の全体的な節約に取り組み、一層の利益面の向上策を進めて、安定した収益性の確立に努めてまいります。

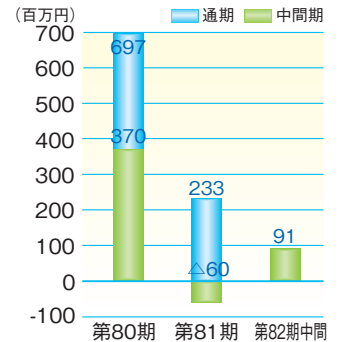
通期業績予想につきましては、売上高308億円(前期比1.6%増加)、営業利益4億75百万円(同9.0%増加)、経常利益2億95百万円(同26.5%増加)、当期純利益1億55百万円(同13.3%増加)を予想しております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

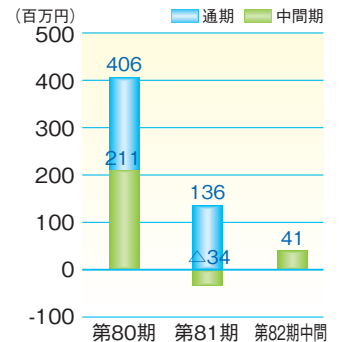
■売上高



■経常利益



■中間(当期)純利益



マウスピュア® シリーズ

マウスピュア® 口腔ケアシリーズ
パッケージを一新し、リニューアルしました。



感染対策サージカルマスク

「感染対策サージカルマスク」
ふつうサイズ・少し小さめサイズ・子供用サイズ
(平成23年秋発売)

- 製品特長
- ・ BFE99%以上のフィルターを含む3層構造。
 - ・ 鼻筋にフィットするノーズフィットピースを使用し、アゴまで覆えるプリーツ型ですので、鼻からアゴまですき間ができにくい構造です。
 - ・ 耳が痛くなりにくい太めの耳ゴム・口元に空間を作るプラスチックバー採用で長時間使用しても快適です。



心臓外科手術用スポンジ「カルディアック スペーサー™」

心臓外科手術用スポンジ
「カルディアック スペーサー™」
(平成23年秋発売)

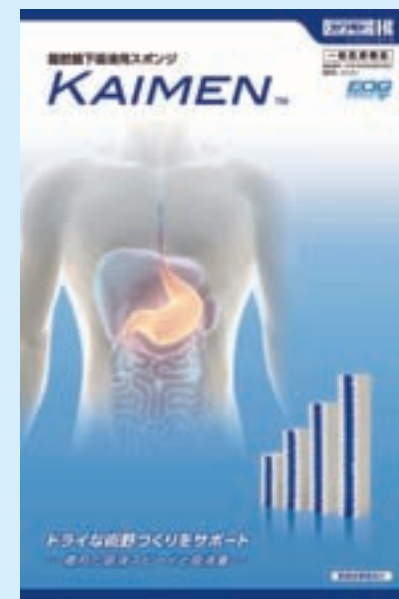
- 製品特長
- ・ 心臓周辺に置くことにより、心臓の位置と向きを安定させ、広い視野と手術部位のスペース確保を容易にします。
 - ・ スポンジ素材でクッション性が高いため、心臓に対して愛護的で心臓の収縮拡張を妨げず、手術をサポートします。



腹腔鏡下吸液用スポンジ「KAIMEN™」

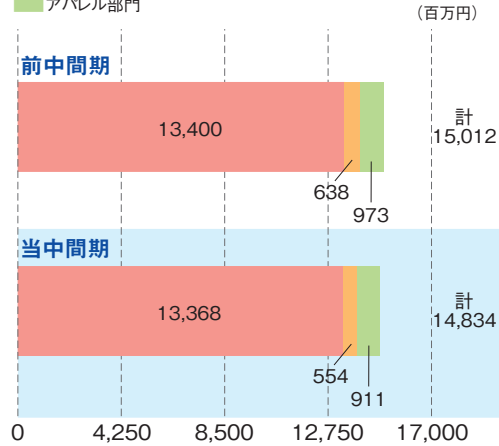
腹腔鏡下吸液用スポンジ
「KAIMEN™」(販売名 カイメン)
(平成23年12月発売予定)

- 製品特長
- ・ 静置しておくだけでスポンジが瞬時にリンパ液や血液を吸液します。
 - ・ 術野がドライになることで、クリアな視界で手術が可能になり、何度もガーゼ等で吸液する手間も省けるため、術者のストレスを軽減します。
 - ・ 長さ2/3/4/5cmの4本セットになっていますので、症状や部位、患者様に合わせて使用していただくことが可能です。
 - ・ ケースに各サイズの重量や目安となる吸液量を表示していますので、出血量の算出が容易に行えます。
 - ・ 両側面にX線造影材を溶着していますのでX線で容易に判別が可能です。



■セグメント別売上高

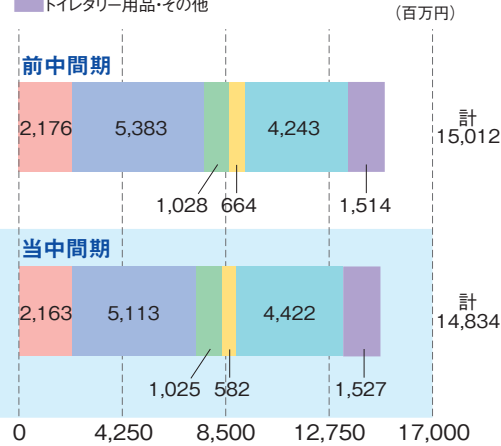
- メディカル部門(国内向け)
- メディカル部門(海外向け)
- アパレル部門



*アパレル部門…当期より、テキスタイル部門から改称いたしました。

■品目別売上高

- 繊維製衛生材料
- 薄織物繊維加工品
- トイレタリー用品・その他
- 医療用品
- 育児用品
- 介護用品



*当期より、品目区分を変更いたしました。

メディカル部門 (海外向け)

輸出を取り巻く厳しい環境の影響を受けて、売上高は減少いたしました。

海外向けでは、円高の続伸・震災の影響による製品調達の遅れに加え、中近東の主力市場における医療機器輸入制度の改正など、輸出を取り巻く厳しい環境の影響を受けました。これらの結果、売上高は5億54百万円(同13.1%減少)となりました。

ドイツで開催される世界最大級の国際医療機器展示会「MEDICA」への継続出展により、欧州・中近東を中心にCEマーク取得の医療機器・衛生材料の輸出推進と情報収集強化をはかってまいります。



海外向け衛生材料製品
「滅菌ベンシーツ」「エンドラクター」

アパレル部門

ベビー用衣料品の販売強化に努めましたが、素材販売・ガーゼねまぎの市場の縮小により前期実績を下回りました。

アパレル部門では、ベビー用衣料品の専門店及び量販店に向けた積極的な販売展開により、育児用品は上昇に転じましたが、素材販売・ガーゼねまぎが市場の縮小により減少し、売上高は9億11百万円(同6.4%減少)となりました。



「ベビー用衣料品」

メディカル部門 (国内向け)

製品・商品ともに医療用品の売上高が減少いたしました。

製品では、衛生材料は前期までの減少傾向から手術関連製品等の高付加価値製品の販売強化により、ほぼ前年同期並みとなりました。また介護用品の「口腔ケア用品」は増加いたしました。また「感染予防製品」の減少により医療用品は前年同期実績を下回りました。

商品では、量販店への販売強化によって育児用品は増加いたしました。また、製品同様に医療用品が減少いたしました。これらの結果、売上高は133億68百万円(前年同期比0.2%減少)となりました。

今後さらに医療機関・学識経験者との連携を強化し潜在ニーズの開拓をはかり、開発体制の強化を推進してまいります。また学会・展示会への出展や医療機関・介護施設向け説明会を積極的に実施し、販売促進に努めてまいります。



「セットバック製品」

■ 中間貸借対照表

(単位:千円)

	前中間期 (平成22年9月30日現在)	当中間期 (平成23年9月30日現在)	前期 (平成23年3月31日現在)
① 流動資産	10,412,660	9,946,645	10,326,973
② 固定資産	5,206,404	4,973,107	5,075,105
有形固定資産	4,022,746	3,817,950	3,914,095
無形固定資産	45,202	47,814	46,935
投資その他の資産	1,138,455	1,107,342	1,114,074
資産合計	15,619,064	14,919,753	15,402,078
③ 流動負債	9,065,931	7,631,179	9,017,485
④ 固定負債	2,136,440	2,749,592	1,834,186
負債合計	11,202,371	10,380,772	10,851,672
株主資本	4,349,153	4,477,825	4,478,098
資本金	883,000	883,000	883,000
資本剰余金	1,192,597	1,192,597	1,192,597
資本準備金	1,192,597	1,192,597	1,192,597
利益剰余金	2,276,839	2,405,811	2,405,784
利益準備金	86,100	86,100	86,100
その他利益剰余金	2,190,739	2,319,711	2,319,684
配当引当積立金	5,000	5,000	5,000
別途積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
繰越利益剰余金	1,185,739	1,314,711	1,314,684
自己株式	△ 3,282	△ 3,582	△ 3,282
評価・換算差額等	67,539	61,155	72,307
其他有価証券評価差額金	67,539	61,155	72,307
純資産合計	4,416,693	4,538,980	4,550,406
負債及び純資産合計	15,619,064	14,919,753	15,402,078

① 流動資産

当中間期の流動資産は前期末に対して3億80百万円減少いたしました。

「現金及び預金」が1億94百万円減少、「受取手形」・「売掛金」が2億27百万円減少、「たな卸資産」が1億10百万円増加、「繰延税金資産」が19百万円減少、「未収入金」が29百万円減少したことが主な要因です。

③ 流動負債

当中間期の流動負債は前期末に対して13億86百万円減少いたしました。

「支払手形」・「買掛金」が2億87百万円減少、「短期借入金」・「1年内返済予定の長期借入金」・「1年内償還予定の社債」が8億68百万円減少、「未払金」が82百万円減少、「未払法人税等」が86百万円減少、「売上割戻引当金」が28百万円減少したことが主な要因です。

② 固定資産

当中間期の固定資産は前期末に対して1億1百万円減少いたしました。

有形固定資産では、「建物」・「構築物」・「機械及び装置」が64百万円減少、「リース資産」が27百万円減少、投資その他の資産では、「投資有価証券」が16百万円減少したことが主な要因です。

④ 固定負債

当中間期の固定負債は前期末に対して9億15百万円増加いたしました。

「長期借入金」が9億27百万円増加したことが主な要因です。

■ 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	当中間期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
売上高	15,012,302	14,834,508	30,324,611
売上原価	12,232,229	11,991,609	24,672,880
売上総利益	2,780,072	2,842,899	5,651,731
販売費及び一般管理費	2,683,710	2,657,710	5,215,968
営業利益	96,362	185,188	435,763
営業外収益	41,300	38,597	69,854
営業外費用	198,040	132,675	272,398
経常利益又は経常損失(△)	△ 60,378	91,110	233,219
特別利益	67,210	11,015	68,843
特別損失	29,775	3,500	55,986
税引前中間(当期)純利益又は税引前中間純損失(△)	△ 22,943	98,626	246,076
法人税、住民税及び事業税	10,477	31,832	116,237
法人税等調整額	693	24,815	△ 6,943
中間(当期)純利益又は中間純損失(△)	△ 34,114	41,977	136,781

■ 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	当中間期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 290,748	△ 158,611	249,337
投資活動によるキャッシュ・フロー	195,834	△ 19,381	163,795
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 143,949	△ 13,541	△ 522,838
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 5,330	△ 3,667	△ 6,313
現金及び現金同等物の増減額	△ 244,193	△ 195,202	△ 116,019
現金及び現金同等物の期首残高	1,023,128	907,108	1,023,128
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	778,934	711,906	907,108

■ 会社概要

社 名 川本産業株式会社
 設 立 昭和6年1月
 資 本 金 883,000,000円
 従 業 員 数 622名 (内、契約雇用者数121名)

■ 役員

代表取締役社長 川 本 武 茂
 ※専務取締役 向 井 藤 年 功
 ※取締役 安 藤 雄 治
 ※取締役 佐 々 木 田 治 廣
 ※取締役 岡 本 邦 新 史 彦
 常勤監査役 北 原 久 彦
 常勤監査役 川 本 新 史 彦
 監査役 日 上 俊 久
 監査役 山 本 久 彦

(注) 監査役日上俊彦、山本久彦氏は社外監査役であります。
 ※印の取締役は執行役員を兼務しております。

■ 執行役員

執行役員 塩 野 宗 一
 執行役員 岡 本 博 巳
 執行役員 横 田 茂
 執行役員 川 本 純
 執行役員 大 谷 純

■ 事業所

● 本 社 〒540-0022
 大阪市中央区糸屋町2-4-1
 TEL.06-6943-8951

支 店

● 東 京 支 店 東京都杉並区阿佐谷北6-1-6

営業所

- 仙 台 営 業 所 宮城県仙台市泉区泉中央3-18-4 オフィス21泉4F
- 千 葉 営 業 所 千葉県市川市大和田4-19-2
- 埼 玉 営 業 所 埼玉県加須市花崎5-31-1
- 日 本 橋 営 業 所 東京都中央区東日本橋3-7-19 友東東日本橋駅前ビル4F
- 名 古 屋 営 業 所 愛知県名古屋市中区城西3-12-12
- 京 都 営 業 所 京都府京都市南区上鳥羽岩ノ本町82-1
- 堺 営 業 所 大阪府堺市堺区大浜南町2-5-8
- 南大阪第1・第2営業所 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東3-14-20
- 神 戸 営 業 所 兵庫県神戸市東灘区住吉南町3-3-5
- 広 島 営 業 所 広島県広島市中区白島中町2-2
- 福 岡 営 業 所 福岡県福岡市博多区博多駅東3-1-8 ヒロショービル2F

出張所

● 高 松 出 張 所 香川県高松市多肥下町21-1 香西ハウス1F

駐在所

- 札 幌 駐 在 所 北海道札幌市東区北39条東20-1-20 ウィンコート39 503号
- 鹿 児 島 駐 在 所 鹿児島県鹿児島市皇徳寺台3-68-1

工 場

- 大 阪 工 場 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東3-14-20
- 埼 玉 工 場 埼玉県加須市花崎5-31-2

物 流

- 大 阪 和 泉 物 流 セ ン タ ー 大阪府和泉市伏屋町5-5-12



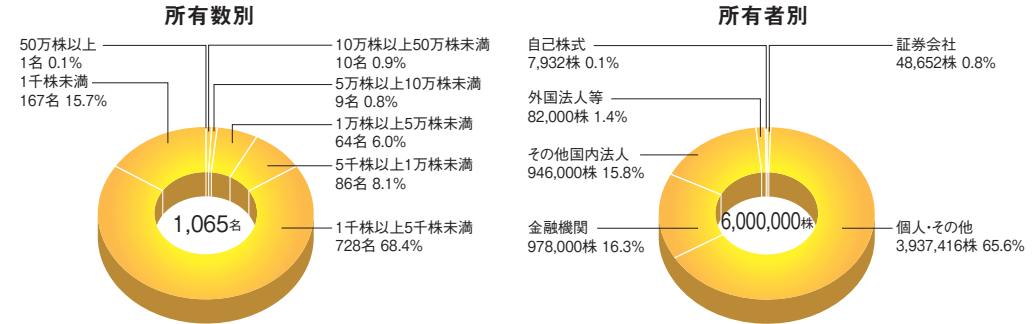
■ 株式の状況

発行可能株式総数 16,000,000株
 発行済株式の総数 6,000,000株
 株主数 1,065名

■ 大株主

株 主 名	持株数 (株)	持株比率 (%)
巴株式会社	600,000	10.0
川本社員持株会	442,250	7.4
川本 武	296,000	4.9
株式会社みずほ銀行	249,500	4.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	249,500	4.2
カワモト取引先持株会	203,000	3.4
伊藤忠商事株式会社	196,000	3.3
株式会社りそな銀行	175,000	2.9
川本 洋之助	170,800	2.8
第一生命保険株式会社	100,000	1.7
株式会社南日本銀行	100,000	1.7

■ 株主分布状況



■ 株価および売買高の推移

